工事現場遠隔確認の試行レポート

最上川下流左岸農業水利事業所では、工事監督の新たな取り組みとして、工事現場遠隔（リモート）立会の試行工事の対象となった毒蛇（どくじゃ）・中央排水機場建設工事での取組状況をご紹介します。

◎通信環境について

試行当初は、所内の通信環境が思わしくなく、まともに遠隔（リモート）立会が行えませんでした。その時の状況は、受注者側で発した音声が、映像から５秒以上遅れて発注者側に届き、視覚と聴覚が全く噛み合わない状態でした。そのため、映像はパソコンで、音声は電話でやりとりするスタイルを取りました。

遠隔立会の様子（発注者側）

しかし、立会に支障をきたすほど映像の乱れが頻発したため、受注者側と対応方法を調整し、借用したタブレット端末を使用しました。その後は、通信機器に問題のない、スムーズな遠隔（リモート）立会を実施することができています。

今後、事業所における通信環境、通信機器の整備が課題になると考えられます。

◎遠隔立会を経験して

遠隔立会は、移動時間を節約できることが一番の強みであると感じました。通信環境さえ整えば、ワンタッチで立会を実施できます。

しかし、この節約が常に良い方向へ結果をもたらすかといえばそうではなく、時と場合によって、以下のように左右されると感じました。

遠隔立会の様子（受注者側：スランプ試験）

〇メリット

- 移動時間を机上執務処理に充てることができ、その時間は現場との距離が遠ければ遠い事業所ほど顕著です。
- 材料確認等、寸法や数量といった単純な立会での活用は有効であると感じました。
- 会議や打ち合わせの途中に長時間席を外さずに済むことが有り難いと感じました。

●デメリット

- 現場を踏む機会が圧倒的に少なくなることです。
- 画面越しでは工事の全貌が把握しにくいため、特に係員としては、現場に行けば得られたかもしれない技術習得の場が減ることに危機感を覚えます。
- 机上執務から現場移動を行うことで頭の整理がつき、新鮮な気持ちで現場に臨むことが出来るため、果たしてこの時間を削減して業務が効率化できているのか疑問に思うところもあります。

◎総括

遠隔立会と現場立会をうまく織り交ぜて工程管理をしていくことが業務の効率化に繋がるのではないかと感じました。

＜発信：最上川下流左岸農業水利事業所＞